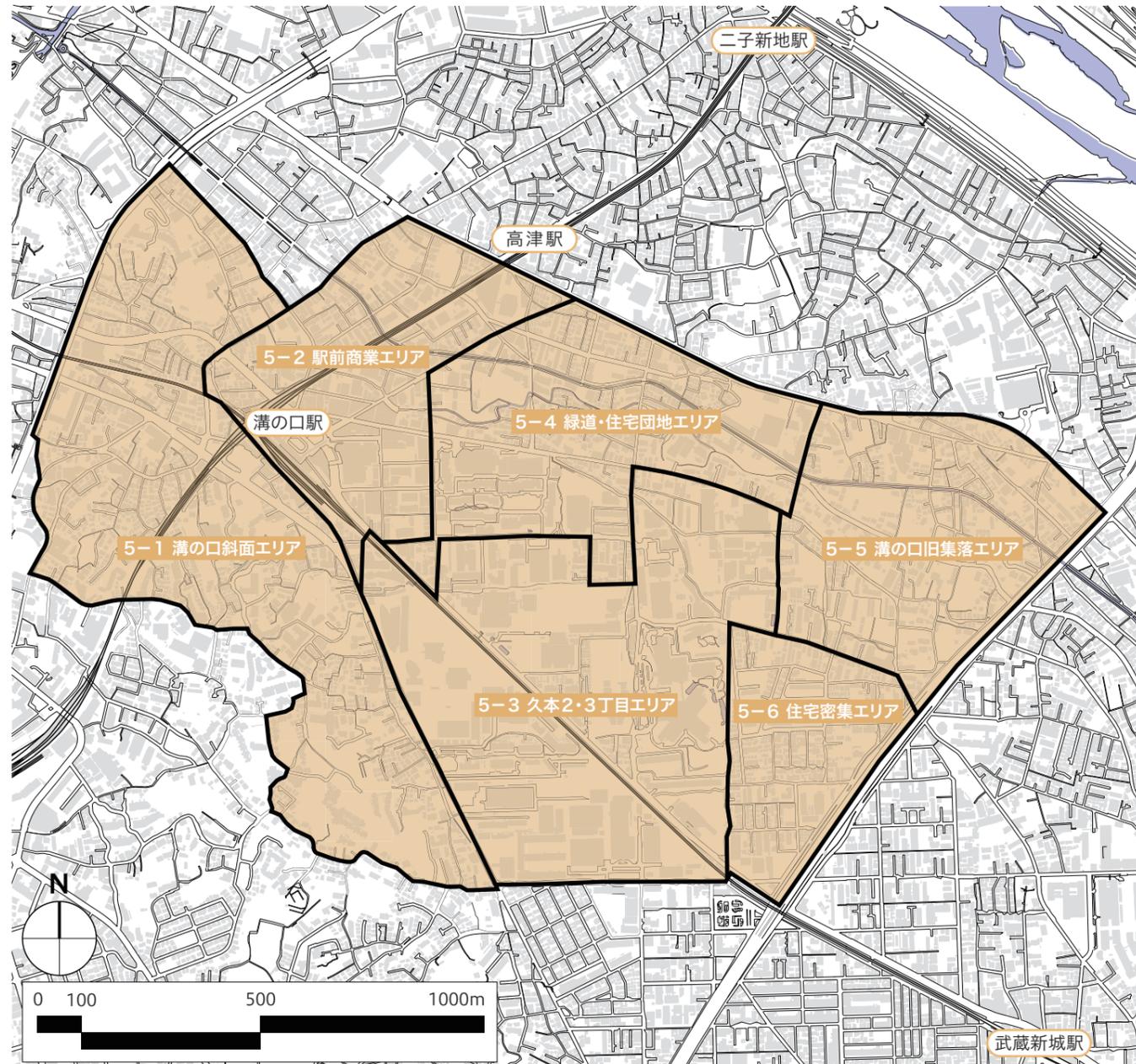
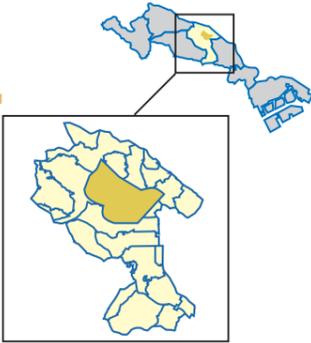


# 5 溝の口地区

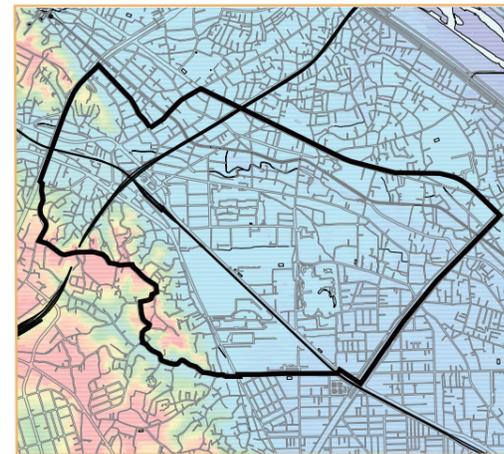
溝の口は神奈川県川崎市高津区の北部に位置しています。溝の口という地名は多摩川の丘陵に流れる多くの小さな川が低地に流れ出る様子が「溝の出口」に見えることが由来とされています。溝の口地区は溝口1~3丁目、久本1~3丁目、坂戸1~3丁目、北見方1丁目、二子5,6丁目から構成されています。駅周辺の溝口地区は商業エリア、久本地区は工場や学校など大規模敷地のエリア、坂戸、北見方地区は住宅や緑が多いエリアとなっており、多くの特徴を併せ持つのが溝の口地区です。また、神社や旧道が多く存在し、歴史の形がエリア全体に残されているのも特徴の一つです。



- 5-1 溝の口斜面エリア**  
斜面緑地を守り、共存した住みやすい景観へ
- 5-2 駅前商業エリア**  
多様な都市機能が混在し、にぎわいのある景観の形成
- 5-3 久本2・3丁目エリア**  
大規模敷地が周辺環境と調和したみどり豊かな景観を作る
- 5-4 緑道・住宅団地エリア**  
連続する緑と水辺空間をつなぐ、心地よい住環境を目指したまちへ
- 5-5 溝の口旧集落エリア**  
旧集落の空間要素を保全しつつ、歩きやすい住景観へ
- 5-6 住宅密集エリア**  
緑と暮らしが共存する、統一感のある住宅景観の形成へ

## 地区の概要

### 地形の境界に住商が共存する景観



溝の口周辺の標高

#### 平坦地と丘陵地の境界

溝の口の地形は多摩川や二ヶ領用水の流れる平坦地と、多摩丘陵の東端部にあたる多摩川崖線で形成され、豊かな水辺空間と起伏ある地形で構成されています。平坦地は整備された景観が広がる一方で、丘陵地は対照的に古くからの景観を色濃く残しています。

#### 商業と住宅が共存

溝の口駅周辺は飲食店や商業施設が集積していますが、駅から離れると居住地が広がっています。旧道を活かした住宅地が広がるエリアのほか、集合住宅が多く見られるエリアなど、エリアにより様々な顔をもった住宅街を見ることができます。

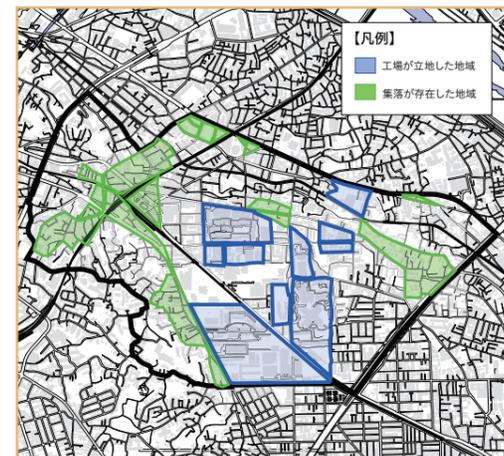


【5-1 溝の口斜面エリア】  
丘陵地に残る古くからの景観



【5-4 緑道・住宅団地エリア】  
商業地と住宅地が共存するエリア

### 歴史の面影を残す景観



溝の口周辺の街路形成

#### 工場の街から複合都市へ

昭和以降、南武線沿線を中心に多くの工場や研究所が立地し、溝の口周辺は主要企業の通勤圏として発展しました。戦後、多くの工場の閉鎖により広大な跡地が残され、現在は大規模集合住宅や研究施設などに転用されて工業地域と住居地域が混在する景観が特徴的なエリアとなっています。

#### 闇市から商店街へ

終戦直後の昭和20年末頃、食料難を背景に100店舗規模の露店群として自然発生的に誕生しました。やがて戦後復興を支える闇市と転じ、これが溝の口駅西口商店街の前身となりました。

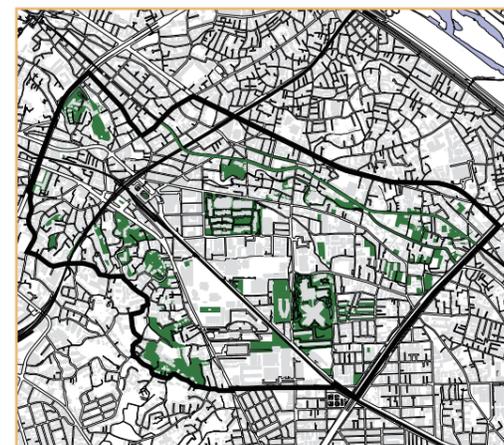


【5-3 久本2・3丁目エリア】  
工場跡地に整備された大規模集合住宅



【5-2 駅前商業エリア】  
闇市から発展した溝の口駅西口商店街

### 水とみどりによる豊かな景観



緑被現況分布図

#### 住宅と私有地のみどり

溝の口の住宅地は敷地が狭く建物が密集しているため、公園などの公共の緑が限られています。一方で、住宅の庭先や塀沿いに植えられた私有地の小さなみどりが景観をやわらげており、密集市街地において大きな役割を果たしています。

#### 水とみどりの歴史ある軸

溝の口では、二ヶ領用水や大山街道といった歴史的な軸を中心に、みどり豊かな景観が形成されています。道路や用水に沿った緑化は、水源とみどりによってまちに潤いをもたらし、歴史的な景観の保存に寄与しています。



【5-5 溝の口旧集落エリア】  
住宅街の街路空間に整備されたみどり



【5-4 緑道・住宅団地エリア】  
二ヶ領用水沿いの樹木による緑化